奈良市文化振興計画　事業評価シート（平成29年度）

事業名		第32回国民文化祭・なら2017　全国障害者芸術・文化祭なら大会　分野別フェスティバル		担当課 施設名	（　第32回国民文化祭奈良市実行委員会　）
総合計画 該当項目	章	2	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	（1）－① （2）－①⑤
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		

実施形態	(単発) 継続	事業開始年	平成29年度	実施回数	14プログラム
日時	平成29年9月1日～11月23日	会場	奈良市内各所		
目的	全国各地で様々な文化活動に親しんでいる人たちが集まり、発表や交流する「国内最大級の文化の祭典」である。奈良県内３９全ての市町村で音楽、美術、伝統文化、歴史文化等、地域の特色を活かした事業の展開を通じて、文化活動への参加を促す。				
内容	奈良市は分野別フェスティバルを実施した。実施したイベントは以下のとおり。 お茶の奈良「茶良」2017、ゴスペルの祭典inなら、相撲甚句の祭典、きものの祭典、連句の祭典、ハーモニカ祭り、なら・いけばなフェスティバル、マーチングバンドの祭典、ピアノと能の響演、日本舞踊の祭典、邦楽の祭典、お香の祭典、ならIGOコングレス、大正琴の祭典				

事業費（円）

	歳入				歳出
予算	市費（一般財源）	17,000,000	その他収入（国費等）	47,000,000	64,000,000
決算	市費（一般財源）	15,741,000	その他収入（国費等）	38,822,000	54,563,000

事業成果

アンケートの集計	配布数：不明	回収数：1,015	回収率：不明

	指標	評価（5点満点）	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）
成果	参加者数・参加率の達成度	4	市町村別の前年度データがなく、目標値の設定は難しかったが、多くの参加者に来ていただけた。特に社寺を会場にした展示企画は、観光客の参加もあった。 目標値：未設定　実績値：71,174人
	参加者満足度	3	アンケートによると、文化芸術に親しむ契機となったという意見が多い一方、子どもの参加できる企画が少ないという意見もあった。
	市民参画・協働の成果はあったか	5	運営にあたっては、文化団体主導で行った。団体にとっても大規模なイベントの運営に関わる機会となった。
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	全国各地から公募等により出演者を選考したことにより、内容の質が保たれた。
	ターゲットを意識した企画であったか	2	各分野の愛好家の来場が多かったと感じるが、一方でそれ以外の人が楽しめる企画が少なかったと考える。
総合評価（自動計算）		3	
参加者や協働相手からの意見		（参加者） 文化芸術に親しみ楽しむ契機となった 出演者の演技に館名を受けた 文化の継承の重要性を感じた （協働者） 当初、費用負担が明確でなかったため不安があった 全国規模のイベントに関われてよかった	

	評価年度の状況	改善案・次年度以降の目標
総括	奈良県での初開催、さらに全国障害者芸術・文化祭との一体開催であった。各プログラムの運営主体が文化団体にお願いしたことから、企画の質は担保できたが、費用負担等の面で各団体の理解が得にくく、事務的な部分での困難があった。 また、障文祭との一体開催について、障がいのある方にも楽しんでいただけるよう意識はしたが、企画に反映できたイベントは少なかった。	都道府県で持ち回りとなる事業であるため、次年度以降の奈良市による開催はない。 事業を通じて、様々な文化団体とのつながりができたので、今後、市の文化振興施策において協力連携を進めていきたい。

奈良市文化振興計画　事業評価シート（平成29年度）

事業名	奈良市アートプロジェクト「古都祝奈良2017-2018」			担当課施設名	（　奈良市アートプロジェクト実行委員会　）
総合計画該当項目	章	2	教育・歴史・文化	文化振興計画該当項目	（2）―①⑤
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成28年度	実施回数	1
日時	平成30年3月9日（金）-3月25日（日）		会場	ならまちセンター　他	
目的	東アジア文化都市の趣旨を引継ぎ、現代社会がもつ様々な課題や事柄、今後、未来に対して、奈良が訴えていくべきこと、奈良がすべきこと、奈良だからできることを、掘り下げ考える機会とし、文化（アート）という窓を通じて、新たな価値の創造につなげていく。				
内容	美術部門：チェ・ジョンファ作品展示、ワークショップ、アートディスカッション 演劇部門：平田オリザの演劇入門ワークショップ、青少年と創る演劇「ならのはこぶね」				

事業費（円）

	歳入				歳出
予算	市費（一般財源）	3,750,000	その他収入（国費等）	3,750,000	7,500,000
決算	市費（一般財源）	3,634,000	その他収入（国費等）	3,750,000	7,384,000

事業成果

アンケートの集計	配布数：聞き取り	回収数：182	回収率：なし

	指標	評価（5点満点）	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）
成果	参加者数・参加率の達成度	5	予想を大きく超える来場者を迎えることができた 目標値：16,805人　実績値：28,706人
	参加者満足度	4	イベントの良かった以上の回答が88%
	市民参画・協働の成果はあったか	2	作品展示運営などは職員や受託業者が行ったが、ボランティア受け入れの体制が整っていれば協働の場になると感じた
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	5	美術部門、演劇部門ともプログラムディレクターを任命したことにより、国際的なアーティストの参加などがあり高い質のプログラムとなった
	ターゲットを意識した企画であったか	3	現代アートや演劇を普段から楽しんでいる人への働きかけはできたが、新しく興味をもってもらうという面では少し不十分であった
総合評価（自動計算）		4	
参加者や協働相手からの意見		（参加者） もっと身近にアートがあれば楽しい。WSなどもしてほしい。 もうちょっと宣伝に力を入れたほうがいいと思った。 もっと規模を大きくした方が盛り上がる。 （協働者） プログラムディレクターや講師からは是非継続しての実施するべきと意見をいただいた。	

	評価年度の状況	改善案・次年度以降の目標
総括	本事業は東アジア文化都市の成果を活かす目的で立ち上げていることから、東アジア文化都市のコア期間のタイトルであった「古都祝奈良」というネーミングを継承した。初回である今回はそのコンセプトを事業展開の中で伝えていくことは難しかったが、今後、このタイトルを事業趣旨と共に上手く定着させて、都市格の向上をめざす文化政策であることを明確にし、市民の理解を得ていきたい。	余裕をもったスケジュールで事業準備にあたる必要がある。 課題となった広報面については、最も効果的なタイミング、ターゲット、場所、広報媒体を選定し、本事業のコンセプトを正確に伝え、認知度を上げていきたい。

奈良市文化振興計画　事業評価シート（平成29年度）

事業名	東アジア文化創造NARAクラス			担当課 施設名	（　文化振興課　）
総合計画 該当項目	章	2	教育・歴史・文化	文化振興計画 該当項目	（6）－①② （9）－④
	基本施策	2-05	文化振興		
	施策	2-05-01	文化の振興		
実施形態	単発・継続	事業開始年	平成29年度	実施回数	7
日時	平成30年7月～12月	会場	奈良市内、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道		
目的	2016年の東アジア文化都市パートナー都市であった中国・寧波市、韓国・済州特別自治道と共に行う国際文化交流事業。 中国や韓国をはじめとする東アジアの歴史や文化を学ぶとともに、地元・奈良についての学びを深める場とし、参加者の国際性を育むことを目的とする。				
内容	東アジア学びの扉（事前学習）全4回 日中韓青少年交流プログラム 中韓渡航プログラム				

事業費（円）

	歳入				歳出
予算	市費（一般財源）		その他収入（国費等）	4,170,000	4,170,000
決算	市費（一般財源）		その他収入（国費等）	4,219,000	4,219,000

事業成果

アンケートの集計		配布数：100	回収数：100　回収率：100%
指標		評価（5点満点）	評価内容（件数・アンケート内容等、評価の根拠を記入）
成果	参加者数・参加率の達成度	4	中韓渡航への参加希望が多く応募が殺到した。国内プログラムだけの参加となった10名の参加者が辞退となった。 目標値：20　実績値：31
	参加者満足度	4	日中韓交流プログラムは台風の影響で予定通りの実施ができなかった。 中韓渡航プログラムに参加できた者は非常に高い満足度であったと思われる。
	市民参画・協働の成果はあったか	4	大安寺国際縁日との企画連携を行った。台風の影響があったが、参加者は互いのイベントを行き来することができた。
	質の確保・向上につながる工夫がなされたか	3	専門知識を持った講師による質の高い講座やワークショップを行うことができたが、高校生にとっては難しいと感じる部分もあった。
	ターゲットを意識した企画であったか	5	普段、国際交流に興味があってもその機会がない学生を対象としており、参加学生の多くがそれに該当した。
総合評価（自動計算）		4	
参加者や協働相手からの意見		（参加者） 自分の意見を言い、相手の意見を聞く。異なる文化の人と行動したことで、自分の今後にとって役に立つと思う。 （協働者） パートナー都市から 日中韓それぞれの都市の学生にとって貴重な経験となっている。今後も引き続き交流を行いたい。	

	評価年度の状況	改善案・次年度以降の目標
総括	同世代の人と交流の場を持てたことは参加者にとって貴重な機会であり、今後の国際交流への意識を高めることができたと考える。 過去の東アジア文化都市に参加し、寧波や済州へ渡航した方にも、東アジア学びの扉や日中韓交流で講師をお願いした。参加者は、東アジアでの文化交流に参加経験がある人の話を聞くことができ、「東アジア文化都市」後継事業としての連続性を持たせることができた。	荒天のため日中韓学生交流プログラムについて大幅に変更があった。中韓を招待しており、参加者にとっては一度きりの交流となるため、天候に左右されにくいプログラムを検討していく必要がある。 プログラム全体に一貫性が見つけにくいと感じられた。中韓開催については、各都市の企画意図もあり、内容の一貫性は取りづらいが、今後は、国内プログラムのテーマを定め、各都市に最適なプログラムを紹介又は企画してもらうようにするべきである。